



南区自治協議会 区ビジョンワークショップ報告

2021.12.22/南区役所

1. 開催概要

■日時：2021年12月22日（水）13：00～14：30

■会場：南区役所 4F 講堂

■自治協議会委員数：30名／当日出席26名

■企画運営：NPO 法人まちづくり学校

〈進行〉メインファシリテーター 和田一良

グループファシリテーター 大滝聡・瀬倉隆博・中村華子・山賀昌子・横尾文字

■達成目標：これまでの取り組みに対し、プラスとマイナスの評価を行いまとめるとともに、区の将来像の方向性につながる意見を集約する。

■プログラム：次ページのとおり。

ワークショップは、区ビジョンの「目指す区のすがた」ごとに、委員を5つの班に事前に編成して進めた（1グループは約6名で構成）。

I. ひととひとがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち：1班・2班

II. 誰もが快適に移動できる交通の利便性が高いまち：3班

III. 農商工の連携が、新たな活力を生み出すまち：4班

IV. 大風が舞い、獅子が跳ね、ルレクチュエが実るまち：5班

意見交換の約束ごと

全員が発言できて、意見が多く出せるように
1人が長く話しすぎないようにしましょう。

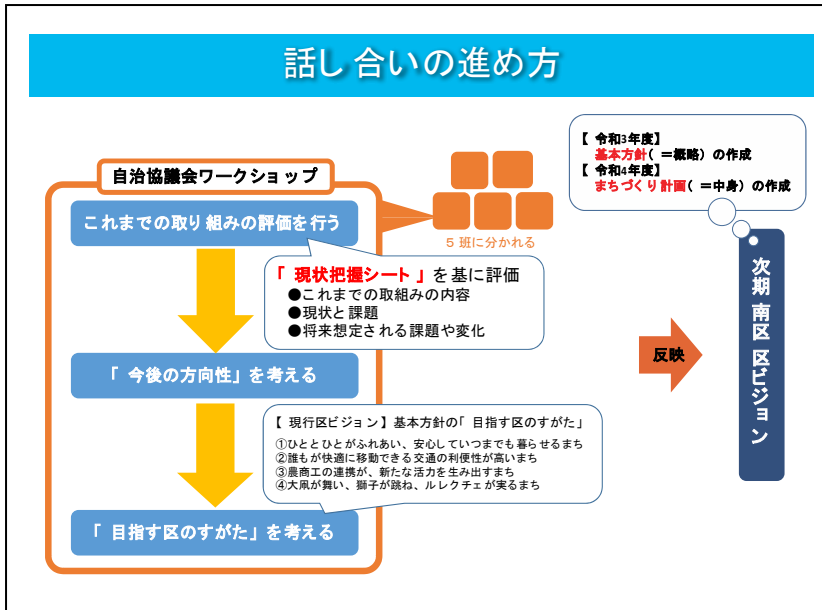
他の人の発言には耳を傾けましょう
自分とは異なる意見は新たな気づきになるかもしれません。
否定や批判はせず、まずは受け止めましょう。

一人一人が発言するだけでなく、気になることがあったら、
どんどん話し合いましょう

グループメンバー全員で協力し合って、
良い話し合いを創り出しましょう

未来の視点で、こんな南区にしたいと理想を語りましょう
一つひとつの細かい議論に終始せず、未来につなげましょう

グループワーク開始前には
進め方や意見交換時の約束ごとを
スライドで説明



これまでと
これからを
考える

南区自治協議会 区ビジョンワークショップ

日時：2021年12月22日（水）13：00～14：30

会場：南区役所 四F 講堂

プログラム

- 13:00 オープニング
あいさつ・趣旨説明・スタッフ紹介・プログラムの説明
- 13:10 ワークショップ1 ～南区の現状を評価しよう！～
これまでの取り組みに対する各自の評価意見の発表し合い、意見交換を行って共有します。
- 13:40 ワークショップ2
「目指す区のすがた」をどうするか、今後の方向性を話し合う中で導き出していきます。
- 14:15 各グループ発表（各2分 5グループ）
- 14:25 クロージング
ふりかえりシートの記入・事務連絡など
- 14:30 終了

Memo

■ワークショップのようす



2. グループワークのまとめ

■目指す区のすがたに対する今後の方向性（一覧）

I. ひととひとがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち

～①防災②交通安全・防犯・防火③生活環境・自然環境

- 地産地消を実現する社会を創る（地域内で生産しているものはなるべく地域内で消費する）。
→そのためには地域内の人や企業や行政が連携し合うことが大切（地域内の情報はできる限りオープンにして、総働の仕組みを具現化する）。
- 地域交通の手段を確保するなど、高齢者にやさしいまちづくりを行うことで、結果的に若者も暮らしやすい環境ができる。
- 子どもの頃からしっかりとした環境教育を受けさせる（ものの価値判断や環境意識などを高める）。→そうした取り組みによって、地元の農家や小規模事業者、生活環境が守られていく。

～④健康・福祉⑤生涯学習・生涯スポーツ⑥協働

- 健康や福祉に関する各種取り組みをもっと見て知ってもらえるよう、南区自治協議会が PR のアイデアを出していく。キャッチコピーは、「市民目線で PR の向こう側にいる人を想像し、実行される健康・福祉のまち」。
- 生涯スポーツの催しは、これまでのやり方にとらわれず、オンラインも積極的に活用しながら同じ時間を共有する。
- 多様な立場の人に地域活動に関わってもらえるよう、若者や女性の生の声を聞く。

II. 誰もが快適に移動できる交通の利便性が高いまち ～①公共交通②道路・橋りょう

- 公共交通は、目的や用途・地域ごとに適切なあり方を考える。
- 乗合タクシーは単なる移動だけでなく、他の分野と組み合わせ、もっと活用する（まちあるき、果樹、飲食店）。
- 自動運転が移動を助けてくれそうなので、うまく使うシステムを考えるとともに、自動運転で走れる道路の整備を進める。

III. 農商工の連携が、新たな活力を生み出すまち ～①農業②産業・まちなか

- 30年後を見据えて農商工連携が活力を生み出す街 ～白根大凧合戦とルレクチェの街～。
 - 白根（南区）が、数十年先にも人が集まっている場所となっているようにする。
 - いい農産物はたくさんある。これをより広報して「白根」の認知を高める。
 - 人が集まる場所を創造し、日常の人流を高める。

IV. 大凧が舞い、獅子が跳ね、ルレクチェが実るまち ～①観光②文化

- 目指す区の姿のキーワード：魅力づくり、若者が集う、継承と発展、南区全員。
- ルレクチェは農業分野に組み込む方がよい。
- 「大凧が舞い、獅子が跳ね、ルレクチェが実るまち」に対し、もう達成している、すでに魅力はあるので、笹川邸を入れるなど変更があってよい。

■各グループの意見と集約

I.ひととひとがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち《1班》

テーマを基に考えた南区の将来像	○地産地消を実現する社会を創る(地域内で生産しているものはなるべく地域内で消費する)。 →そのためには地域内の人や企業や行政が連携し合うことが大切(地域内の情報はできる限りオープンにして、総働の仕組みを具現化する)。
	○地域交通の手段を確保するなど、高齢者にやさしいまちづくりを行うことで、結果的に若者も暮らしやすい環境ができる。
	○子どもの頃からしっかりと環境教育を受けさせる(ものの価値判断や環境意識などを高める)。 →そうした取り組みによって、地元の農家や小規模事業者、生活環境が守られていく。

これまでの取り組みの評価		評価の集約または今後の方向性		
		個別意見の集約・要約	評価のまとめ	
①防災				
プラス	各地域(地区)にて、年1回程度防災訓練は行われていると思う。 住民参加の避難運営体制の検討は必要なことである。	各地域において住民参加の避難訓練は必要なことであり、ちゃんと実施できている。		
	自治会、コミュニティ協会の防災訓練で、災害意識は周知されつつある。	各世代に防災意識は着実に浸透しつつある。		
	高齢者の安全教室の開催。			
	若者への防災教育。			
	中ノ川川の国による道路直轄化に向けた国県への要望は継続実施すべき。			
マイナス	活動自体は良いが目的を整理したい。特に誰を主にした長期計画の策定なのかを明確にする必要がある。 訓練は、役員のみで行われているのではないかと。(全住民の参加が必要) 訓練の参加者が毎回同じである。 主だった訓練に変化がないと思われる。習慣化され危機感の薄れがあるのではないかと。 高齢化により助けを求める連絡手段が不足する。 在宅避難者への周知が少ない。 高齢者施設での避難訓練は? いざ災害となった時、避難場所になり得るか? ハザードマップはどうするのか。 避難所対策でコロナ禍での避難方法の見直しや対策に不安がある。	避難訓練が形骸化しつつあり、危機感が薄れてしまっている。全住民参加でない意味がない。 在宅者・高齢者などの連絡や情報伝達方法に、まだ不明確な部分がある。 避難所の明確な利用方法等を明示する必要がある。	全体に計画性を持って進めていくことは大事だが、何より地域と行政の役割分担を明確にして取り組む必要がある。	
	②交通安全・防犯・防火			
	プラス	事故発生件数が減少しているのは、少なからず安全教室などの取り組みが機能しているからだと思う。	交通安全教室などの取り組みが機能している。	○まちあるきグループなどの協力を得ることも重要。
	マイナス	交通に限らず、インターネットを通じての誘惑に対して細心の注意が必要。警告が必要。 蛍光反射板の注意喚起看板が少ない。 この分野で、地域が一体となるための協働精神が必要。	ネット上の情報に関しては信用できるものとできないものがある。注意喚起も必要になっている。 南区の道路は曲がりくねっており、とても見通しの悪い箇所が多いため、現在の数では足りない。 地域と行政との役割分担をもっと明確にすべき	○南区特有の道路形状に合わせて交通標識や蛍光反射板などの設置を考える。
	③生活環境・自然環境			
プラス	不法投棄防止、地域クリーン作戦(例:以前は学区ごとに広報で呼びかけ、地域ごとに行っていた)。ウォーキングフェスティバルと組み合わせるかどうか。 家庭ごみは増加しているが、分別の徹底でゴミステーション内はきれいである。 空き家の状況を把握ができているということは評価できる。	クリーン作戦や分別の徹底などは浸透しており、ゴミステーション内はきれいである。 空き家の実態調査は評価できる。	○具体的に家庭ゴミを減らす方法を加速化させるべき。これはSDGsにも通ずる考え方であり、企業は既に取り組んでいることである。 ○子供の頃から環境教育を徹底して受けさせる。	
マイナス	家庭ごみの具体的な減量策の周知が足りない。 郊外に出ると、道路へのごみポイが目立つ。 アパートでゴミ処理の検討ができていない、情報がない。 エコ・サステナブルに関する知識、行動を啓蒙していく必要があると思う。 持ち主はいるが解体費用がかかるのか取り壊しがされていない。倒壊して人的被害が出たとき誰が責任を取るのか、検討も必要である。 空き地の把握も必要である。 空き家情報の更新に当たっての自治会への協力要請が不十分。 独居家庭(老人宅)が多くなり、見守りが必要。 自治会にボランティア袋が欲しい。	ゴミを出さないようにするという住民の意識がまだ低い。そのためには環境に対する教育を高める努力が必要。 空き家だけでなく空き地の実態調査も必要。また責任問題も明確化したい。		

I.ひととひとがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち《2班》

方向性のまとめ	健康や福祉に関する各種取り組みをもっと見て知ってもらえるよう、南区自治協議会がPRのアイデアを出していく。キャッチコピーは、「市民目線でPRの向こう側にいる人を想像し、実行される健康・福祉のまち」
	生涯スポーツの催しは、これまでのやり方にとらわれず、オンラインも積極的に活用しながら同じ時間を共有する。
	多様な立場の人に地域活動に関わってもらえるよう、若者や女性の生の声を聞く。

これまでの取り組みの評価		評価の集約または今後の方向性	
		個別意見	まとめ
①健康・福祉			
プラス	就労支援相談会は継続開催の方がよい。	特定健診はうっかり受診を忘れても、再度お知らせが届くので思い出すことができる。	健康や福祉に関する各種取り組みは充実。継続していく。
	はかろう体重！大作戦は続けてほしい。	「はかろう体重！あるこう南区！大作戦」は記入カードも配布されていて、取り組みやすい。	
	個別に再度送ることで意識が上がる（特定健診）。	子育て広場は、子育て仲間ができるいい機会になっている。	
	子育て広場の開催、続けてほしい。		
マイナス	特定健診受診率が34.77%と極めて低い。	南区の特定健診受診率はこれまで8区の中で最下位だった（コロナ禍のR2年度においては順位を上げている）。重症化してから病院へ行く傾向があり、医療費負担も増える。悪循環である。	特定健診や、健康増進の取り組みのPRは、思ったより届いていない。行政のやり方で足りていない部分こそ、南区自治協議会で知恵を絞って担うべき。
	特定健診受診率について？（数値の取り方に疑問あり）	庄瀬地区では、新潟市内でなく、田上町など市外のかかりつけの病院で検診をしている人も少なくない。受診率が下がっているのは、市外受信者の数が含まれていないからではないか？	
	健康関係の取り組みがまだまだ（足りない）	「はかろう体重！あるこう南区！大作戦」の取り組みは知らなかった。	
	特定健診とミニドック、どちらも補助（を出してほしい）	コマースのように、繰り返すフレーズで受診などを呼び掛けたらどうか、 自分の健康に関心を持ってもらう、きっかけが必要。	
②生涯学習・生涯スポーツ			
プラス	天気の良い日は散歩している人が多い。	フロアカーリングは、子どもから大人まで幅広い世代が楽しめるのがいい。南区が中心となって普及活動を行い、他地区との交流試合も行っている。	フロアカーリングなど、子どもから大人まで楽しみながらスポーツに取り組んでいる。 図書館や公民館など公共施設が利用しやすく、生涯学習やスポーツ活動の活性化につながっている。 これまでの集合型にとらわれず、オンラインも積極的に取り入れながらスポーツを楽しむ。
	コロナ禍でジョギングしている人が増えた。	地域センターで行っているヨガがおすすめ。気軽に参加できるスポーツ活動が各種行われている。	
	フロアカーリングの取り組み、南区中心でおこなっている。	新潟市と合併したことで、図書館や公民館などの公共施設が一元化されて、予約システムなどが使いやすくなった。	
	フロアカーリング、スポーツ振興会を中心に小学校や福祉の現場で普及している。	新潟シティマラソンでは、ランナーが一堂に集合してスタートするのではなく、任意の時間や距離をランニングするやり方で行った。必ずしも集合型でやる必要はない。 オンラインで繋がり、同じ時間を共有するやり方も良いと思う。	
	地域センターで20代～70代、ヨガをやっている。1回500円、20人くらい	白井地区では、中学生が高齢者施設利用者に、オンラインでラジオ体操を教えた。画面も見やすく好評だった。	
	図書館や公民館が使いやすく、充実してきた。	オンラインは高齢者には難しいかもしれないが、やっているうちに慣れる。やろうと思えばできる。積極的に活用を進めよう。	
	合併後、新潟市（の公共施設）としてまとめて予約ができるようになった。		
マイナス	雨の日はむずかしい。（散歩やジョギングなど、屋外ではスポーツがしにくい）		コロナ禍でスポーツ活動を制限や中止せざるを得なかった。
	イベントが中止で残念でした。		

③協働			
ブ ラ ス	自治会役員交代は持ち回りにした方がよい。定年、前後の年代に。	役員は持ち回りにしたことで、お互いに納得して役を引き受けることができるようになった。自分が役員を経験すると、苦労が分かるので、ほかの人が役員の時に協力するようになった。	各コミュニティ協議会が、地域づくりの核となって成果をあげてきている。 官民連携による新商品の開発・販売が進んでいる。
	地域コミュニティは活発に活動している。	南区は地域生活センターをコミュニティ協議会が指定管理している。センターになんでも相談できる専属の職員がいることが心強い。	
	コミ協が地域づくりの核組織として成果をあげてきている。		
	地域センター専属の職員がいる。指定管理がうまくいっている。		
	農家と産業振興課の連携が進んでいる。		
	南区農産物を活かした新商品の開発・販売に取り組んでいる。→もっともっと知ってもらうには、レンドを置く作りたくなる。		
	JRとコラボし、お米の収穫、お酒の酒米づくり(が行われた)		
マ イ ナ ス	自治会役員の高齢化。	地域活動は、年輩の男性が担うものと思われてきた。県外では女性が地域づくり組織の中心を担うようになってきているところもある。女性の視点を大事にしたい。	地域活動は高齢の男性が中心になって担ってきたが、女性や若者など多様な立場の人と話す機会を設けて、多様な立場の人に関わってもらおう。
	役員の持ち回りはうまくいっていないところもある。	災害は、働き手が地区外へ出ている日中に起こる場合もある。日中家にいる人を対象に、災害時の対応を担ってもらえるよう考えなければならない。	
	担い手不足。	若者は若者と、年輩は年輩と集まっている。	
	もっと協働をPR(そもそも協働とは何かが分かっていない人が多い)	区バス利用が少ない。どのようにしたらいいのか。	
	地域に関心がない住民が多い。	空き店舗、空き家の利用を進めたい。月に一度定期的にギャラリー、イベント、フリーマーケット、南区の宝である農産物などの販売をしたらどうか。	
世代間の隔たりあり。特に農村集落は交流が付きにくい。			

II.誰もが快適に移動できる交通の利便性が高いまち 《3班》

コメントの方向性のまとめ	公共交通は、目的や用途・地域ごとに適切なあり方を考える
	乗合タクシーは単なる移動だけでなく、他の分野と組み合わせ、もっと活用する(まちあるき、果樹、飲食店)
	交通にかけるお金の使い方をニーズに合わせて考え直す
	自動運転が移動を助けてくれそうなので、うまく使うシステムを考えるとともに、自動運転で走れる道路の整備を進める

これまでの取り組みの評価		評価の集約または今後の方向性	
		個別意見	まとめ
①公共交通			
プラス	区バスの運行。 南区バス、住民バス、乗合タクシーの運行。 乗合タクシーの運行。 ダイヤ改正やルート変更を行った。 ニーズに合ったダイヤ改正やルート変更を行った。 区バスをノンステップバスに変更した。 区バスをノンステップバスに更新。利便性が高まった。 公共交通の情報発信を行った(区だより、地域の茶の間、利用者懇談会など)。 協賛企業を募った。 区バスやぐるりん号に乗ってみたら、ぐるりん号を利用した町めぐりが楽しかった。乗れば楽しい。楽しむ子どももいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・まちあるきや果樹園などの観光との組み合わせや、飲み会での割りなどでPRし、乗合タクシーを利用する。 ・情報発信しているが、理解しづらい。 ・情報発信しているが、知らない人が多い。 ・本当に必要なか? 必要がないのでは? ・公共交通がないと困る人もいる。 ・ドライバーの高齢化による事故が多発。自家用車に頼らない公共交通網整備が急務。 ・車に乗らなくなると行動しなくなり認知症が進む可能性がある。行動範囲は広いほうが良い。 ・イタリアでの事例のように、集落内に車を入れない手もある。 	<p>目的や用途・地域ごとに適切なあり方を考える(通勤通学・買い物・病院)。</p> <p>単なる移動だけでなく、他の分野と組み合わせ、もっと活用する。</p>
	マイナス	<ul style="list-style-type: none"> ・維持する経費を少し減らして、各コミ協に車の貸し出しをして小回りがきくようにしたほうが今後の高齢化社会に貢献できる。(小林コミ協では福祉施設のバスの空き時間に地域住民の移動に利用している) ・移動に困っている人には交通費を直接支給したほうが良い。 ・地域での「ささえ合い」がますます大切になるが、ボランティアなど関わる人がおらず、自治会の負担が増えそうだ。 ・自動運転(無人)は現実になりそうだ。連絡するとすぐに利用できるようになるといい。そのためのしくみづくりや道路整備を行う。 ・パーク&ライドは環境対策としても良い。 ・外出の際にご近所で誘っても遠慮がある。 	
②道路・橋りょう			
プラス	道路や橋りょうの整備は計画的に進められている。 白根バイパスが開通した。 幹線道路網の整備ができ、車両の走行性が向上した。 大野大橋以南の4車線化が進行中。		道路や橋りょうの整備や補修は今後も着々と進める。
	マイナス	<ul style="list-style-type: none"> ・国道8号の4車線化を進めてほしい(交通量が多すぎる)。 ・不具合箇所の早期発見。補修は当たり前の取り組み。 ・補修や修繕の予算が少なすぎる。 ・市道の補修が遅れている。 ・道路の維持管理が課題。 ・老朽化の橋りょう、道路の維持管理がいま現在、将来とも課題。 ・施設の老朽化。 ・老朽化の維持管理費が大きい。 ・維持管理費の増加懸念。 ・通学路の除雪は速やかになんとかしてほしい。 	

Ⅲ農商工の連携が、新たな活力を生み出すまち 《4班》

コメントの方向性のまとめ	○30年後を見据えて農商工連携が活力を生み出す街～白根大風合戦とルレクチエの街～
	→白根(南区)が、数十年先にも人が集まっている場所となっているようにする。
	→いい農産物はたくさんある。これをより広報して「白根」の認知を高める。
	→人が集まる場所を創造し、日常の人流を高める。

これまでの取り組みの評価		評価の集約または今後の方向性	
		個別意見	まとめ
①農業			
プラス	南区農業の方達の生産意欲はかなりあると感じた。特に米、果物に対して。	「ルレクチエといえば白根」というように、全国的に認知してもらえるよう、広報に予算を使うべき。	果物はいいものを持っている。あとは広報をさらに進める必要あり。
	どこに旅しても南区の農産物ほどおいしいものはない。	12月にルレクチエを食べに来るツアーなど、体験型コンテンツを推進するべき。	
	若い農業経営者が新しい取り組みに挑戦し、成果を上げている。	「南区」より「白根」という名前を使い、白根大風合戦も活用してルレクチエをPRすると良い。	
	ルレクチエの知名度が全国的に浸透してきていると感じた。		
マイナス	色々と取り組んでいるが生産者の声が聞かれていない？	やっている人の声しか聞いてない。聞く機会が欲しい。	ルレクチエの売り方・アピールをどうするかを考える必要がある。
	ルレクチエをどう販売していくか？		
	販売拠点が南区にない(道の駅)		
②産業・まちなか			
プラス	図書館・スポーツ関係の施設がある程度充実しているように思う。	農家さんが米や果物を販売し、区内外から人が集まる道の駅がほしい。	南区に來たいと思わせる、人の集まる場所が必要である。
	空き店舗を再生した新規出店も増えつつあり、今後に期待。	南区には宿泊できる場所が少ないため、人を集めるには温泉ホテルが必要。	
		温泉ホテルの構想があるが、大手を入れない姿勢だと聞いた。これでは永遠に実現しない。	
		交通網がバスしかないのを活かし、白根中心に人が集まるバス拠点がほしい。	
		新潟市の中心に位置し、どの区からも同じくらいの距離で来れるメリットを活かし、ドーム球場を設立するなら南区に作ってほしい。	
	バス以外の交通網として、モノレールを作ってほしい。		
マイナス	南区の50年後のビジョンは？100年後のビジョンは？(将来構想未来像)	事業全体は評価するが、短期間の実施では？長期間の実施を望む。	南区の今ある価値をより活用するために、より長期的なビジョンを持つことを望む。
	南区の価値をどうするか？→今あるものをどう活用？		
	事業全体は評価するが、短期間の実施では？長期間の実施を望む。		
	商店街に呼び込むターゲットが絞られていない。高齢者に便利な町づくりなのか、若者向けの町づくりなのか。	商店街の活用として、福祉施設を作り、高齢者が商店街の中だけで完結して生活できる町をつくらせてみてはどうか。商店街内での購買活動が活性化し、空き家を活用することもできるのではないかな。	
	中高年目線だけのまちづくり計画で良いのか？20歳の若者にはまだ60～70年の人生が残っている。50歳の方はその半分の人生しか残っていない。	商店街が活性化し人が集まれば、企業誘致にもつながり、子ども食堂やシェアハウスといった若者向けの企画も出てくると思う。	
	南区地区バスぐるりん号がありますが、乗り手が増えない。	デマンド型タクシーの運営にもっと力を入れてもらいたい。乗り合いタクシーの将来の方向性の議論が少ない将来の道付がない。	
	空き店舗や空き家の活用でイベントの開催？小規模の計画では？大きなイベントでないとは集まらないと思う？		
	イベントだけでは一過性で終わる。		
	商店街の後継者がいない。		
	商店会構成員自身の取り組みが喚起されていない。アクションが見えない。		
	南区南部にはスーパー小売店が少ない。	8号線に道の駅があったらいい。必要と思われる。消費者、生産者の活性化につなげることとなる提案がほしい。	
	防災対策について。水害、地震、雪対策の話とかチラシではなんとなくわかっているが実際の行動はどうしたら良いのか実地訓練。コロナの為にできていない。今後どうするか情報が少ない。		
	ビジョンがない。今後の公共交通、先人たちが10年くらい前から取り組んでいるが発展がない。		
日常の人流を増やす施策が示されていない。			

IV.大風が舞い、獅子が跳ね、ル レクチエが実るまち 《5班》

方向性 の ま と め	目指す区の姿のキーワード: 魅力づくり、若者が集う、継承と発展、南区全員。
	ルレクチエは農業分野に組み込む方がよい。
	「大風が舞い、獅子が跳ね、ル レクチエが実るまち」に対し、もう達成している、すでに魅力はあるので、笹川邸を入れるなど変更があってよい。

これまでの取り組みの評価		評価の集約または今後の方向性	
		個別意見	まとめ
①観光			
ブ ラ ス	モデルツアーを旅行会社とタッグで組む。	イベントには南区民みんなが参加できれば。	○大人から子どもまで楽しめる体験を行う。 ○南区民全員が参加。 →やりたい人を受け入れる体制づくりが必要。 ○年間通じて楽しめるように。 →イベントだけでなく通年でPR、有効活用できれば。
	イベント開催により来場者が増加(笹川邸)。	発信について、イベントごとに継続的なPRができれば。	
	文化施設で、凧館、笹川邸ともガイドが付き、安定した説明はよかった。	南区民、区外の方にどうPRするか。	
	笹川邸の「和のヒカリ」で新しい客層が増えた(若者向け)。		
	笹川邸や凧館などで単なる会館だけでなく、企画事業開催で新たな魅力を創出。		
	白根大風合戦:コロナ感染症の中、実施できたことは評価し、継続してほしい。		
	SNS等の発信媒体の工夫。		
	効果的な情報の発信。		
	凧館では合戦情報のPR、笹川邸はイベントをからませPR、角兵衛獅子は小、中学生に働きかけPRを継続し、南区の魅力を区民にさらにアピール。		
	首都圏での観光、土産のPR。		
マ イ ナ ス	PR効果がわからない(首都圏での土産も今回初めて知った、売上などの具体的な情報を知りたい)。		
	南区住民の意識不足。		
	凧館、笹川邸、角兵衛獅子の担い手作り不足。PRと区民全員参加の呼びかけが必要。		
	白根大風合戦は、コロナ感染症の中実施されたが、上げ手やインバウトを考えると土日を含めない合戦はさみしい。		
	「和のヒカリ」だけ見て帰るのは勿体無い。		
	凧館、笹川邸の減少傾向に対しイベントが入館の時、会場魅力作りが必要。		
	子ども、若者が魅力を感じるモノのイメージがない。		
	南区の魅力を知る機会がない。		
	施設の維持が難しい(笹川邸)。		
	資金不足。 個人的にイベントに参加するきっかけがなかった。		
②文化			
ブ ラ ス	南区まち歩きガイドブックの作成。	あるものを掛け合わせて今風へできれば。	○担い手不足の解消に向け文化を開いていく。 →伝統を守りつつ、新しいものを取り入れていく。 ○一つ一つを掘り下げる。 →解説など工夫を取り入れ発信へ。 ○南区全員がまちあるきをする。 →区民自らPR、自ら南区を知る。
	南区まち歩きガイドブックの制作及び開催は非常によかった。今後も継続してほしい。	イベントと担い手募集を掛け合わせる。	
	農作業体験、オンラインツアー実施、評価と継続。	伝統を守りつつ、現代にあった形へ。	
	貴重な伝統文化が南区にある。	まちあるきを起点としてPRできれば。	
	郷土愛(思い)。 伝統文化を住民が大切にしている。	伝統を全国に開き、自ら伝えていく。	
マ イ ナ ス	南区まち歩きでイベントもからませしてほしい(PRIにつなげる)。		
	南区の文化資源を学校の教材の一つにする。		
	伝統文化の魅力度が低い(一回見て「こんなもんか」ではなく、深いところを紹介できれば)。		
	広く担い手を募集(全国的に)、支援と育成。		
	後継者不足。 人材不足。		
	農作業体験、オンラインツアー実施とともに、担い手探しも一緒にPRする。		
	区外在住の人におすすめできるほどの魅力が弱い。 発信方法の工夫が弱い。 (笹川邸は歴史など)元々興味のある人しか関心を示さなそう。		

2021.12.22 / 南区 区ビジョンまちづくり計画WS

II. 誰もが快適に移動できる交通の利便性が高いまち (3班)

これまでの取り組み

① 公共交通

プラスの評価

マイナスの評価

② 道路・構りよう

プラスの評価

マイナスの評価

評価の集約または今後の方向性

今後の計画は到着と進めたい
補修はありまふので、おまかせ

3班

21.12.22 南区WS 3班

ここに期待して 新はしかりやい

自動運転 (無人) 連絡する お利用する (予約)

誰もが快適に 移動できる 交通の利便性が 高いまち

現実になるかも

現在の「おまかせ」

「おまかせ」が 大事な 切り手

大連橋の 専断 - 安全は 確保

少年高齢化に 対応する 交通対策

歩道の 整備を パブリックに お願い

3班

これまでの取り組み

① 農業

プラスの評価

マイナスの評価

評価の集約または今後の方向性

果物はいいものを持っている。
売り方・アピールをどうするか。

② 産業・まちなか

プラスの評価

マイナスの評価

評価の集約または今後の方向性

長期的なビジョンを持つ!

① 目的や用途・地域ごとに適切なあり方を考える

② 単なる移動だけでなく他の分野と組み合わせることも活用する

③ 交通にかかるお金の使い方をニーズに合わせて考え直す

④ 自動運転が移動を助けてくれるので、よく使うシステムも考える + 走れる道路整備

4班

南区の今後の方向性

～白根大風台とルノワールの街～

11/7の広報 農業ツアーの企画

販売お場所 米も果物もオアシ

農業で付加価値を高める

「商店街」の活性化

30年後を目ざして農商工連携を推進する

ドーム球場を南区に

交通網 バスしかい

白根中心にバスの拠点を

商店街に福祉のまちをつくる

子育て支援 シニア世代 定額制で活用可能

施設を中心 商店街との連携で促進 -> 企業支援

3. 参加者のふりかえり

シート回収数 19 枚

〈Q1〉全体の満足度

平均値 4.06

(とても満足した：5 満足した：4 普通：3 不満だった：2 とても不満だった：1として算出)

〈Q2〉Q1でそう思った理由は？

■とても満足した (3名)

- ・活発に意見が提案されて、他の委員の方の意見が聞けて本当に勉強になった。
- ・盛り上がりのある考え、提案が次々と出され、いいワークショップだったから。
- ・みなさまが積極的に発言されていた。

■満足した (13名)

- ・いろいろな意見が聞けた。
- ・いろいろなアイデアが出ておもしろかったです。
- ・いろいろな意見が出て良かった。
- ・いろいろな意見が出て、楽しく話し合いができました。
- ・他の人の意見を聞いて良かった。あらためて良いこと、悪いことなど感じられた。
- ・活発な意見交換ができた。
- ・さまざまな立場、年齢の方々と問題を話し合いできたのはおもしろかった。ここでの話し合い

で終わらず、具体的な取り組みまで決めることはできなかったか？

- ・ みんなで思うことが話せました。
- ・ 今後の南区を考えていくことが楽しかった。
- ・ ファシリテーターが入り、スムーズに進行してくれたから。
- ・ 私の考えがみなさんと同じであった。
- ・ 最後の発表で緊張した。

■ 普通（2名）

- ・ いろいろな意見、考え方を出し合って盛り上がったこと。
- ・ 時間が短すぎる。まちづくり学校の山賀さんのおかげで終えることができたが。

■ 未記入（1名）

- ・ 意見が活発で良かったと思います。
- ・ 未来の構想について話し合えた。

〈Q3〉 WS での気づき

- ・ いろいろな発想があると思った。今まで自分で考えたことのないことが多かった。
- ・ みんなが考えていることは同じようですね（PR が大切だと思う考え）。
- ・ 共有できるお話がたくさんありました。人数的にちょうどいいですね。
- ・ 区外の人も考えも聞けた。

- ・多くの意見を聞くことができた。
- ・いろいろな方々から話を聞き、これからの農業を考えるきっかけになりました。
- ・今後の南区を考え、必要なことを知るきっかけとなった。
- ・委員の皆さんの南区に対する熱い思いを感じた。
- ・住民自らが南区を愛しているということ。
- ・みなさん、それぞれ南区を思う気持ちが同じだなあと思った。
- ・将来の交通網のあり方を考えさせられた。
- ・交通機能は良くないのだが、そこに住む人たちのまじめで自分のまちづくりに本気でいられる姿勢が刺激になりました。
- ・まだまだ PR 不足。
- ・今後の南区のビジョンがはっきりしない。
- ・すべての面で南区は地方のまた地方だと感じました。
- ・区民全員がまちづくりに入っていない。
- ・考えるということはいいことだ。
- ・時間が短い。
- ・テーマは1つに絞る必要がある。
- ・委員の個々の意見をうまくまとめるコーディネーターに感謝。
- ・まとめ役がすばらしかった。上手にみなさんの意見をまとめられてました。

〈Q4〉 WS で嬉しかったこと・残念だったこと

■嬉しかったこと

- ・たくさんの意見が出たこと。
- ・次から次に話が出てきて楽しかった。
- ・みんなが思い思いに話げできたこと。
- ・みんなと話し合えたこと。
- ・自分の考えをこの機会に話すことができたこと。
- ・けっこう活発な意見交換がなされた。
- ・明るくオープンな意見交換ができた。
- ・みなさんからいろいろなご意見が聞けたこと。
- ・みなさんの声が聞けたこと。
- ・みなさんの言葉（心の内）が聞いて良かったと思いました。やっぱりざっくばらんにお話できるのは良いことでした。
- ・具体的な将来像が描かれて良かった。
- ・委員の皆さんの南区に対する熱い思いを感じた。
- ・いかに発展させようとする感があった。
- ・とにかく楽しいワークショップでした。
- ・進行や引き出し方がうまい人がいるとワークショップも面白い。
- ・会を進める横尾さん、話しやすい雰囲気を作ってくださり、ありがとうございました。
- ・ファシリテーターさんのリードが良かったこと。
- ・特にありません。

■残念だったこと

- ・時間が足りない。
- ・今回の成果がどう次に未来に役立つかまで落とし込みたい。
- ・このワークショップの成果をどのようなプロセスで生かしていくのかの説明がなかったこと
(夢を語って終わるような…)。
- ・夢が見れたのかと思ったら全体会議で現実に戻されました。残念です。
- ・今後の未来像がわかりにくかった。
- ・担い手不足が前面に出ていたが、まずは体験ツアーの努力をしていない。
- ・やはり南区は長い地域なので、各地域で差があることをあらためて思いました。
- ・特にありません。

〈Q5〉その他、気づいたことなど

- ・今までの前例や規制にとらわれず、改善すべきはするスタンスで取り組む必要がある。
- ・南区の10年後のビジョンを示してもらいたい。
- ・ワークショップはおもしろいことがわかった。ただ、今回の、例えば一つの答えが実際にどう動き出していくのかまでゴールが見えれば余計に具体性や現実味があったと思う。
- ・自治協もこのような意見が素直に出てくる会になるといいですね。
- ・ふせん記入が事前にできていてスムーズに進行できていた。
- ・ファシリテーターがよく誘導していてスムーズに進展して良かった(まとめ方もすばらしかった)

た)。

- ・さすがまちづくり学校と思わせる、最初(5/11)のワークショップとは雲泥の差。活発な話し合いができてとても良い。
- ・今日の意見を今日だけの話にならないよう、新潟市からも考えていただきたい。
- ・でも結局は何もできないのでは…。